

1 はじめに

本校は全校児童15名の小規模校であり、低・中・高学年別の完全複式学級となっている。児童数が少ないことから全校一斉に活動する機会が多く、毎朝設けている15分間の朝の活動においても週3日、全校で活動している。そのうちの2日間はドリル学習に取り組んでおり、漢字ドリルと計算ドリルをそれぞれ1日ずつ実施している。この時間には、全校児童と教職員全員が一つの教室に集まり、担当学年に関係なく教職員全員で丸付けや個別指導を行っている。ドリルの内容については、主に「愛媛学びの森」学習支援サイトの「漢字のうた」「漢字ふりかえりシート」「計算チャレンジシート」を活用し、個別に持たせた記録表に教職員がチェックしている。この記録表により、定着していない内容や進度を、教師や児童自身が把握することができる。

2 実践例

(1) 漢字ドリル

1年

漢字を学習し始めるまでは平仮名や片仮名、言葉の学習の内容のプリント集（コピーフリー）を使用して、別メニューで実施する。

2・3年

『漢字のうた1～3』の音読テスト(ルビなし)→『漢字のうた1～3』の漢字部分に読み仮名を書くテスト→『漢字のうた1～3』の漢字書き取りテスト」の順に実施する。

4～6年

「漢字ふりかえりシート」を使用する。既習漢字の範囲を一通り終えた児童には、シートの左端にある「ヒント」を消去するなどして、同じプリントでも飽きないように工夫して何度も繰り返して取り組ませる。

(2) 計算ドリル

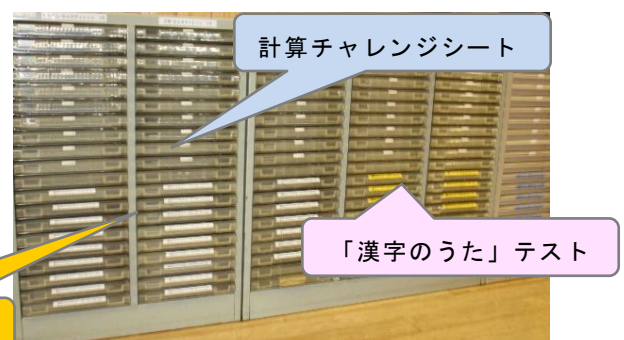
「計算チャレンジシート」の一覧表を基にシートを学年別に分け、レターケースに整理して入れている。児童は、記録表を確認しながら、自分の進度に合わせたシートで学習を進めている。教師は、丸付けや記録表へ確認のサインの記入、つまずきの見られる児童への指導を行っている。記録表には、全問正解のときは赤で、訂正して正解したときは青で日付を記入しているの、定着している内容とそうでない内容が一目で分かり、教師は個別指導に、児童は家庭学習に生かすことができる。ただ、1年生はすぐに使えるシートが少ないため、学級担任が既習内容のプリントを用意して取り組ませている。

	A		B		C		D		E	
	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20
①	3/26	9/26	6/2	6/9	6/23	6/9	10/13	10/13		
②	4/26	4/26	6/9	6/9	6/9	6/9	10/13	10/13		
③	5/24	5/24	6/9	6/9	6/9	6/9	10/13	10/13		
④	5/24	5/24	6/9	6/9	7/18	7/18	7/9	7/9		
⑤	5/26	5/26	6/16	6/16	7/18	7/18	10/13	10/13		
⑥	5/26	5/26	6/16	6/16	9/18	9/18	10/20	10/20		
⑦	5/26	5/26	6/16	6/16	9/18	9/18	10/20	10/20		
⑧	5/26	5/26	6/16	6/16	9/18	9/18				
⑨	6/2	6/2	6/23	6/23	10/13	10/13				
⑩	6/2	6/2	6/23	6/23	10/13	10/13				

計算ドリルの記録表

3 おわりに

それぞれの学級でドリル学習を行うよりも全校一斉に実施した方が全教職員が児童の習熟度を把握でき、個別指導がしやすい。また、プリントも年度当初にそろえておけば活動の度に準備する必要がなく、多忙な複式学級担任にとっても無理なく続けられるものとなる。



漢字ふりかえりシート

シートを整理したレターケース